

馬場ひでゆきの活動日誌

みなさんお元気ですか。新潟県議会議員の馬場です。ご無沙汰しております。本年4月に県議会議員になり、既に3カ月が過ぎました。この日誌では、県政や政治がみなさんに身近に感じていただけるように私の活動などを紹介していきます。どうかよろしくお願いいたします。

8月11日 干ばつ調査

8月11日、日本共産党議員団（橋爪・上野・平良木の各議員）と干ばつ被害の調査で吉川区町田・大島区藤尾・大島区足谷の田んぼを視察しました。これらの田んぼは、いずれも中山間地の水田で雨水に頼る天水田です。

上越市周辺では先月21日からこの日まで雨が降っていません。吉川区の町田集落にあるため池はほとんど空っぽの状態でした（下の写真）。

大島区足谷では山の中に広大な田がありますが、地割れの深さは15センチメートルに達し、稲の葉が巻き上がったたり、既に黄色く枯れたりする被害



発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3-3
ダイヤパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファクス 025-546-7666

害が広がっていました。

大島区藤尾の山間部の水田にも行きました。農家の方は、近くの沢からポンプとホースで水を運んでいましたが「燃料代の経費がかさむ、今後が心配だ」と不安を口にされていました

8月14日 上越市に申し入れ

この日は、上越市の農林水産部を訪問して日本共産党の議員団とともに緊急要請をしました。

上越市は、8月10日に、①消雪用井戸の開放、②水稲・園芸作物・養魚等の農業者支援の補助事業を決定していました。

私たちは、この支援策を積極的に評価しつつも、「今夏の干ばつは、ポンプがあってもくみ上げる水がないことが問題の本質だ、より詳細な被害の実態調査を行い、場合によっては農業者への見舞金支給などもしてほしい」と要請しました。

その後、中川市長が現地調査などに乗り出し、「今以上の援助が必要」と検討をはじめました。急いで検討、実施してほしいと思います。

(左の写真は大島区足谷で撮影。田んぼはカラカラに乾き、大きく深いひび割れが生じています)



8月21日 牧区坪山に

その後も、雨は、15日の夕方にもちよっぴり降ったのみで日照りは続いています。

21日は、日本共産党の衆院北陸信越比例候補の藤野やすふみ(前衆院議員)と平あや子氏が牧区坪山を訪れ、米農家から被害の実態や要望を聞きました。私と党上越市議団3人も同行しました。「どぶろくの卓さん」で知られる中川卓夫さんから案内してもらいました。

中川さんは、「ため池の水も、残り水位1mを切り、2・3回湿らす程度で枯れる」「水田は、大きくひび割れ、水が行き渡らず稲が枯れ始めている、雨がほしいが、枯れ始めていて収穫できても三等米で、価格は一等米の3分の1と大赤字だ。農家にとって収穫量より等級を落とすことが一番つらい」と話しました。

また、中川さんは「棚田の畔(あぜ)近くのひび割れは、冬に水や雪が深くまで染み込み棚田が崩れる危険があるため、固め直す土木工事が必要だ、公的支援がほしい。ひびの深さで費用や支援の線引きがされるため、刈り取り前に急いで被害調査してほしい」と訴えました。



(右の写真、左から、平あや子さん、中川さん、橋爪市議、私です)

(※あとがき※)

私が子どもの頃、父親は勤めから帰ってくる時、いつも田んぼに行つて水を見ていました。今、そのことを思いだし、水の大切さや農家の方々の水管理の仕事の大変さを実感しています。

今後も日照りが続き、干ばつの被害の拡大が懸念されます。実態調査をしながら、迅速な支援を国や自治体に求めています。